

インドにおける都市・農村の 長期変動に関する研究

東京大学 大学院人文社会系研究科 教授

水島 司

(お問い合わせ先) E-MAIL : zushima2010@gmail.com



研究の背景

インドは、目覚ましい変化を遂げ始めました。高度経済成長が続き、21世紀はインドが牽引するとの予測さえあります。確かに、今日の空港やデパートの様子は、かつてのインドからは想像もできません。人々の暮らしも大きく変わったように見えます。評価も一変し、旧習の象徴とされたカースト制が、経済発展をもたらす要因だとの議論すら出てきています。その一方で、貧困率は高く、女性の平均身長も一向に伸びず、階層間の格差も縮まっていないのです。

いったい何がどう変化しているのか、インドはどのような社会になっていくのかを解明することは、21世紀の世界を構想していく上で極めて重要なことです。この課題に、長期変化と短期変化、マクロとミクロの視点を重ねて取り組もうとしたのが、本研究でした。

研究の成果

研究では、GIS(地理情報システム)を共通の手法としました。GISとは、情報を空間に埋め込み、時間的変化や地域的差異を可視化する手法です。インドは膨大な人口と複雑な地域差を有しており、平均値では実態が見えません。さまざまな差異を把握するには、GISが極めて有効です。

研究は、基本地図の作成から始めました。内外から、5000枚近い地図を入手し、90万件以上の地名に位置情

報を与えました。また、資料にある地名との照合のために、表記が異なっても検索できるシステムを構築し、India Place Finderとしてウェブで公開しました。収録地名数はグーグルの2倍近くあり、最強のシステムとして世界の研究者に利用されています。

この成果は、『激動のインド』(全5巻、『変動のゆくえ』、『環境と開発』、『経済成長のダイナミズム』、『農業と農村』、『暮らしの変化と社会変動』)として、日本経済評論社から出版されました。GISが可能にした長期変動と地域間格差の解明、都市と農村が溶融現象を起こしながら変化している状況を究明しています。

今後の展望

本研究では、大英図書館などにあるインド植民地期の資料も大量に収集しました。今後、GISとの組み合わせで、研究をさらに進めていきます。研究成果は国際会議で発信していますし、英語の論集もイギリスの出版社から刊行されます。本研究は、日本のインド研究を一気に国際的なレベルに引き上げ、それにより世界の研究をリードしていく基盤になるものと考えています。

関連する科研費

2015-2017年度 基盤研究 (B) 「インド都市史の研究」

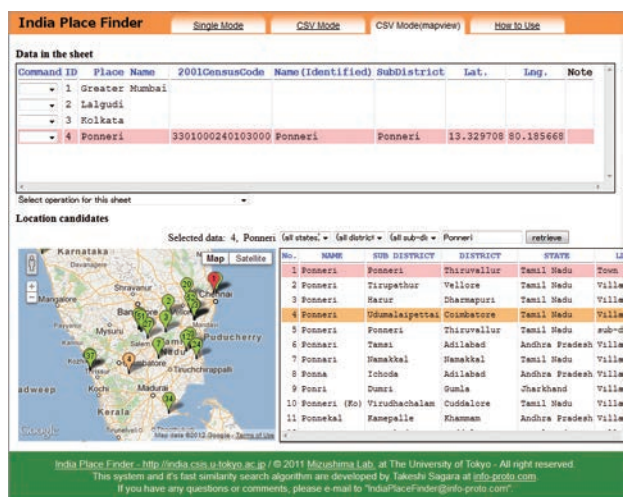


図1 India Place Finderのイメージ図

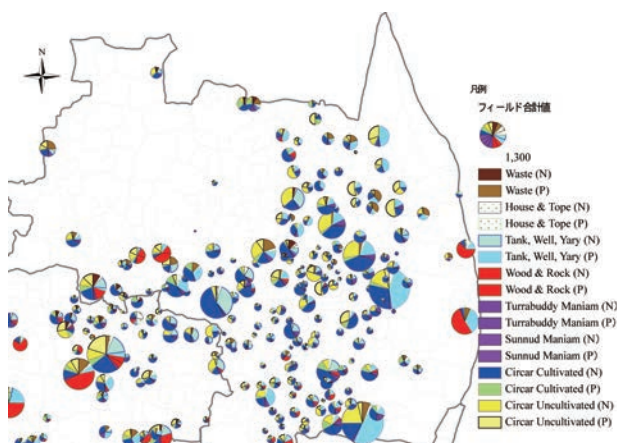


図2 1801年の村落記録からGISを用いて作成した土地利用図